

かごしま幕末絵巻

～ 小松帯刀の目線でみた幕末の物語 ～

— 第4巻 —

薩長同盟への道筋



幕末偉人列伝



維新の三傑
大久保 利通

Toshimichi Okubo

生まれたての明治日本を牽引した薩摩藩士。明治政府においては寡黙な政治家として知られる。幕末では島津家のお家騒動の影響で一度役目を解かれるが、島津久光に抜擢され朝廷の公家や幕府老中との交渉を担当した。

大久保利通：国立国会図書館

冷静でまじめな印象がある
大久保どんですが……？

IJIN MANGA

～ 大久保どんのヒミツ～



会議で都合が悪くはなと寝転んでみる——。

冷静で真面目そうな印象の大久保利通。しかし歴史を軽解くと

…偉くはなと、やんちゃいよ。もできな

酒の席の空気が悪いと畳を回し出す!!!

物語の舞台裏



入来温泉

— 薩摩川内市 —

約700年の歴史を持ち、藩内の地誌等をまとめた『三国名勝図会』にも記されている。薩摩藩主や大久保利通も訪れた。若い頃、大久保はこの温泉でさまざまな「いたづら」をしたという伝説が残っている。

〈交通アクセス〉

九州自動車道・始良ICから車で30分
JR川内駅から車で30分

〈問い合わせ先〉

入来温泉湯之山館 Tel.0996-44-2301
薩摩川内市 入来町副田6179

次巻「薩長同盟、成る」の巻

【画：KENRO 本文監修：南九州歴史学会】

仲を深めた薩摩藩と長州藩、
同盟へと動き出す！

急速に仲を深めた薩摩藩と長州藩。強く豊かな国づくりにむけて、両藩は協力体制を築いていきます。

薩摩の名家老、小松帯刀の目線で振り返る幕末の物語。

〈慶応元年夏〉駆け抜ける龍馬と慎太郎

坂本龍馬という男の行動力は、まさに龍のようでした。大坂から薩摩、肥後、大宰府、長崎、下関……西日本各地を訪れ、さまざまな藩士、公家あるいは商人などと交流を図ります。彼は自らが持つ人脈を活かして、新しい国づくりのために長州藩と薩摩藩が親密になるよう下準備をしていくのでした。時を同じくして土佐を脱藩した中岡慎太郎という男も、薩摩藩士とともに薩摩を訪れ、島津久光公に長州と手を結ぶようもちかけます。中岡さんはすでに長州の桂小五郎さんや高杉晋作さんと会談し、同盟について打診していたのです。

中岡さんは西郷吉之助に対し、西郷が京都に上る際、下関に立ち寄ることを要求します。下関で龍馬さんと桂さんが行っている、同盟の下地

〈慶応元年秋〉大久保対幕府

その頃、京都では大久保が長州藩のために、幕府や朝廷と交渉していましたが、大久保は朝廷に働きかけ、幕府の長州藩攻めを認めないよう迫りました。また、長州藩が京都に攻め込

んだ罪を免じるようお願いもします。大久保は努力しましたが、残念なことに朝廷から幕府に、長州藩を再び攻めることの許しが下りました。大久保は余程憤慨したのか、西郷への書状に「あのようなものは天皇の命令ではない」としたためています。西郷はこの書状を龍馬さん経由で長州藩に送りました。その文面から、薩摩藩は新しい国づくりのため、長州藩の立場がよりよくなるよう奔走していることを理解してもらえなかったからです。

〈慶応元年秋〉薩長同盟前夜

九月、長州藩主毛利家父子の敬親・広封両公から我が藩の久光・茂久両公に書状が届きました。薩摩藩が長州藩の軍備増強に力を貸したことへの御礼の内容でしたが、その中で「今まで薩摩藩に対して抱いていた悪い感情を『氷解』させた」こと、「ともに天皇を中心とした国づくりに励んでいきたい」という趣旨も含まれていました。長州藩主自ら薩摩藩との提携を望んでいるという書状の到着は、私たちに大きな影響を与えました。まさに今から、一気に藩主同士の交流が始まろうとしているのです。

大久保と西郷の奔走や龍馬さんと中岡さんの協力、そして双方の藩主父子のやり取りを受け、桂さんは同盟締結のため京都に向かう決心をします。幕府が長州出兵に向け着々と準備をする中、私たちも大きな決断を迫られたのです。【次巻につづく】